

# 開会の辞

日本語教育センターシンポジウム 2016

## 大学の国際化と日本語教育 — 発展的で持続可能な学部・ 研究科との連携を目指して—



国際センター長、  
観光学部教授  
杜 国慶

○藤田 皆様、本日はお忙しい中、立教大学日本語教育センターシンポジウム 2016にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。本日の司会進行役を務めさせていただきます日本語教育センター員、藤田恵と申します。よろしくお願いいたします。

では、初めに開会の辞を頂戴いたします。立教大学国際センター長、観光学部教授、杜国慶先生、お願いいたします。

## 開会の辞

---

○杜 皆さん、こんにちは。ご紹介いただきました国際センター長の杜国慶です。本日は、お休みのところ、ご多忙にもかかわらず、シンポジウムにご参加いただき、誠にありがとうございます。

本日のシンポジウムは、大学の国際化と日本語教育を、発展的・持続的な可能性について考えていきます。立教大学は授業料減免などの制度を通して、留学生がより勉学に取り組みやすい教育環境を整えてきました。とくに、2014年度に文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」に採択されてから、徹底した国際化と国際競争力の向上が緊急課題となり、協定校と留学生数を増やす努力をしてきました。

協定校を開拓するため、毎年、2月または3月にアジア、オセアニアで開催される APAIE、5月に北米で開催される NAFSA、8月にヨーロッパで開催される EAIE などの国際会議には積極的に参加してきました。その際、大学が設けた



日本語教育センター員

## 藤田 恵

日本語教育センターが重要な役割を果たすことは言うまでもありません。各学部・研究科の特徴を見極めて、持続可能な連携を探る今日の議論と意見交換に、期待しております。

最後になりましたが、ご出席いただいた、識者のみなさまにおかれましては、心から感謝を申し上げますとともに、今回のシンポジウムを企画していただいた日本語教育センター並びに関係者の皆様に改めてお礼を申し上げまして、私の挨拶といたします。

○藤田 杜先生、ありがとうございました。

ブースの目立つところに、必ず日本語教育センターのパンフレットを置きます。というのは、日本語教育センターは立教大学の新規協定校開拓の良い交渉条件に位置付けされていると考えられるからです。

2016年10月20日現在、立教大学に在籍している外国人留学生は743名です。正規課程留学生および半年または1年の交換留学特別外国人学生を合わせた全体の在籍者数は、最も多くの留学生が在学していた2015年度の598名を超え、過去最高の人数となりました。留学生により満足できる教育・研究の環境を提供するためには、日本語